

19. 1. 31

佐倉市 教育センターだより Vol.11

平成19年1月31日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486) 2400 <http://www.city.sakura.lg.jp/kyoikucenter/index.htm>

平成18年度の取り組みを振り返って

所長 大野尊史

佐倉市教育センターも、開設4年目が過ぎようとしています。本年度は、大きな調査として、「学習状況調査」「市民道徳意識調査」「健康・体力に関する調査」を行いました。他の調査もあわせると、平成18年度は合計で、2万人を超える方々のご協力をいただいて調査・研究活動を実施しました。また、教育相談も多くの方々に利用していただきました。

<平成18年度の主な調査>

科学技術教育に関する調査

- 対象 ■ 小・中学生（抽出）
内容 ■ 科学技術等に関する興味関心
■ 自然体験やものづくり体験
■ 学習の有益性に対する意識

健康・体力に関する調査

- 対象 ■ 小・中学生とその保護者（抽出）
内容 ■ 児童生徒の睡眠、食事、運動、
悩み等の実態や意識
■ 保護者の食事等に関する意識

基礎学力に関する調査

- 対象 ■ 小・中学校
内容 ■ 基礎学力育成の取組

市民道徳意識調査

- 対象 ■ 市内県立高校4校の2年生、年代別抽出20歳代から60歳以上の成人3,000名
内容 ■ 高校生の家庭の会話と道徳性
■ 高校生の道徳性に関する意識
■ 高校生と地域社会とのつながり
■ 成人の日常会話と道徳性
■ 成人の道徳性に関する意識
■ 成人と地域社会のつながり
■ 高校生と成人の比較

学習状況調査

- 対象 ■ 小・中学生、教職員
内容 ■ 小・中学生の学習等に関する意識 ■ 国語、算数・数学の基礎学力の状況（一部）
■ 教職員の学習指導等の状況や意識

佐倉学に関する調査

- 対象 ■ 小・中学校
内容 ■ 佐倉学への取組

今日、教育に関する様々な課題が指摘されています。当教育センターの調査結果を概観してみると、家庭教育と学校教育に境目をつくることは、意味がないとわかります。社会教育も含めて教育は重なり合っているのだと認識し、それぞれが連携し合い役割を果たしていくことが解決には重要です。多くの方々のご協力に感謝申し上げるとともに、この貴重なデータが、教育機関や市民の皆様に活用され、佐倉市教育の向上発展に結びつくよう引き続き努力してまいります。

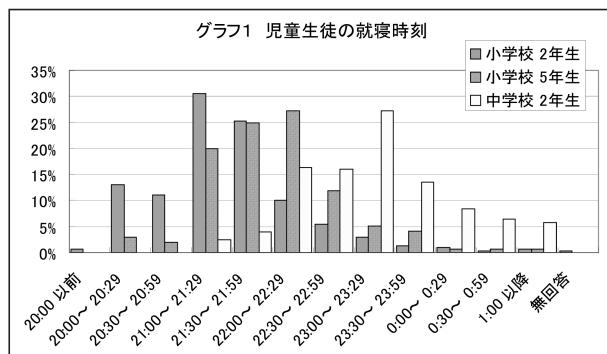
子どもがより健康な生活を送るために — 健康・体力に関する調査より —

1 はじめに

市内の小・中学生やその保護者の生活習慣や意識の実態を明らかにして、小・中学生の健康・体力の増進についての指導及び家庭との連携を図るために、平成18年11月に市内抽出校の小・中学生とその保護者、学級担任を対象に「健康・体力に関する調査」を実施しました。今回は児童生徒の調査結果の一部を紹介します。

2 中学生の2割は午前0時以降に就寝

児童生徒の就寝時刻は、小学校2年生が午後9時くらい、小学校5年生が午後10時くらい、中学校2年生は午後11時くらいが多いです。どの学年も就寝時刻が分散しており、一部に夜遅くまで起きている児童生徒も見られます。午後10時以降に就寝する小学校2年生は全体の約20%、午後11時以降に就寝する小学校5年生は全体の約10%、午前0時以降に就寝する中学校2年生は全体の約20%います。【グラフ1より】



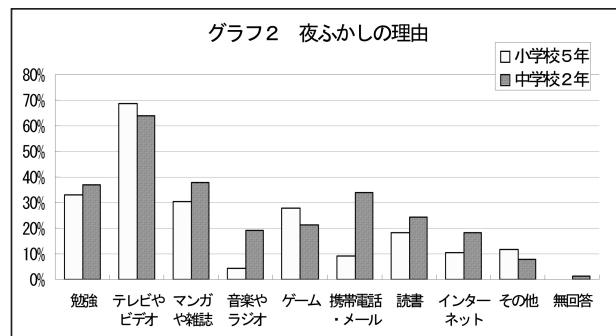
睡眠時間の平均は、小学校2年生が約9時間、小学校5年生が約8時間、中学校2年生は約7時間です。中学校2年生の約1割は睡眠時間が6時間未満です。

3 夜ふかしの主な原因是テレビやビデオ

「勉強」や「読書」をしている割合が高く、小・中学生ともに「勉強」は30%台、「読書」は20%台の割合です。

しかし、夜ふかしをする理由で一番多いのは「テレビやビデオ」であり、小・中学生ともに全体の60～70%の割合を占めています。「マンガや雑誌」は、小・中学生ともに全体の約30～40%の割合です。

小・中学校別にみると、小学生では「ゲーム」、中学生では「携帯電話・メール」が多いことが目立ちます。【グラフ2より】



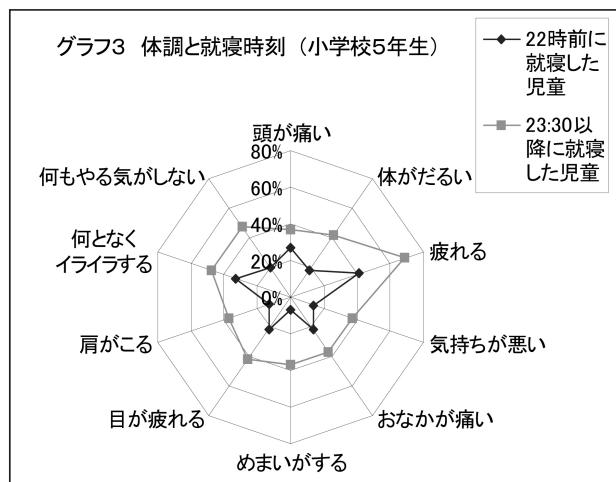
3 毎日朝食を食べている児童生徒は約9割

朝食を毎日食べている児童生徒は、約9割です。就寝時刻が午前0時以降の児童生徒は、朝食を食べない日があると回答した割合が高まる傾向があります。朝食を食べない日がある主な理由は、「食べる時間がないから」「お腹が空いていないから」が多いです。

4 小・中学生の8割以上は体の不調を訴えている

「次のようなことがよくありますか」と体調に関する質問をしたところ、小・中学生ともに一番多かったのは「疲れる」であり、全体の4割以上の割合を占めています。小学生で次に多いのは「何となくイライラする」であり、中学生では「頭が痛い」です。一方、体調がよく「あてはまることはない」と回答している児童生徒は、小学校5年生で約20%、中学校2年生で約10%しかいません。

体調と就寝時刻の関係を見ると、午後11時30分以降に就寝する児童は、午後10時前に就寝する児童より、全ての項目について体の不調を訴える割合が高くなっています。【グラフ3より】

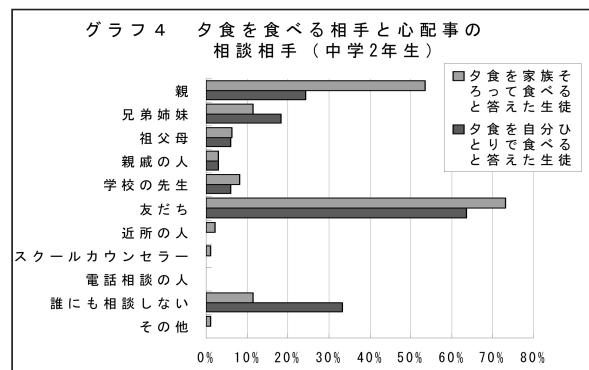


また、体調と朝食の摂取状況の関係を見ると、朝食を毎朝食べていない児童は、毎日朝食を食べている児童より一部の項目を除いて体の不調を訴える割合が高くなっています。これら体調と就寝時刻、体調と朝食の摂取状況の関係は、中学生でも同様の結果を示しました。

5 悩みや心配事の相談相手は「親」や「友だち」

「今、とても困ったことや心配事はない」と回答した割合は、学年が上がるにつれて低下しています。悩みや心配事があるときの対処法で一番多いのは「誰かに相談する」で、小・中学生の約半数が回答しました。相談する相手は、小学生では「親」が約60%、次いで「友だち」が約50%の割合でした。中学生では「友だち」が約70%を占め、次いで「親」が約40%の割合でした。

夕食を「家族そろって食べる」と回答した児童生徒ほど、「親に相談する」と回答した割合が高く、夕食を「自分ひとりで食べる」と回答した児童生徒ほど、「誰にも相談しない」と回答した割合が高いです。【グラフ4より】



6 おわりに

今回の調査結果を、市内小・中学校では児童生徒の健康・体力向上のための指導計画づくりに生かし、健康や食育の指導の一層の充実を図っていただきたいです。また、データを社会教育関係機関における事業計画の見直しのための資料として活用していただきたいです。佐倉市教育センターでも報告会等での発表やホームページでの公表等を通して、児童生徒の健康増進に役立ててもらえるように努めてまいります。

(西村 隆徳)

教育相談の状況から

～教育電話相談室より～
連絡先 043-484-6611

1 はじめに

「児童虐待」や「いじめ」に関する問題が、テレビや新聞などマスコミにも大きく取り上げられ、社会問題にもなっています。教育相談室にも様々な相談が寄せられています。本年度4月当初から12月末までに寄せられた相談件数は、延べ605件です。そのうち電話による相談が約9割で、面接による相談が約1割です。相談者の大半は母親です。

2 相談内容

家庭や家族に関する相談が全体の22%を占め、しつけに関する相談も約15%あり、家庭教育に関する悩みが深いことを実感しています。身体や情緒に関する相談は18%、不登校に関する相談は12%ほどです。いじめに関しては、相談件数は減少していますが、いじめを受けている子の保護者の方からの相談がほとんどです。いじめた側の子の保護者の方からの相談は4年前に1件受けたのみです。いじめた側の子の保護者の方も相当悩んでいると考えられますが、相談となると難しいのでしょうか。

他に、友人関係、園・学校、進路や学習に関するここと、非行、思春期や性に関するこことや、地域・生活に

関することについて相談がありました。

3 相談への対応

近年、家庭や家族に関する相談と、身体や情緒に関する相談が増加しています。相談内容も複雑になっており、子どもの人権に関わる問題に発展するのではないかと思われるようなケースもあり、慎重に対応しています。このような問題は、今後も増加傾向にあると思われます。相談室では、これからも相談者の身になって問題解決に努めています。

4 おわりに

今の社会は、大人も子どもも良好な対人関係を築くことが大変難しい社会になってしまったという話をよく耳にします。子どもの問題は大人の問題でもあります。親が問題を一人で抱え込み、ストレスの受け口を子どもに向けてしまうようなケースもあります。一人で苦悩することなく、相談機関を利用してほしいと思います。どんなことがあっても、子どもの話をよく聞き、子どもを責めたり否定したりしないでください。

日頃から、悩みを聞きながら子どもの心を探る努力をし、子どもが何でも話せる関係を築いておくことが大切です。

(学校教育相談員 酒井 孝子)

学習指導の改善に向けて

—学習状況調査より—

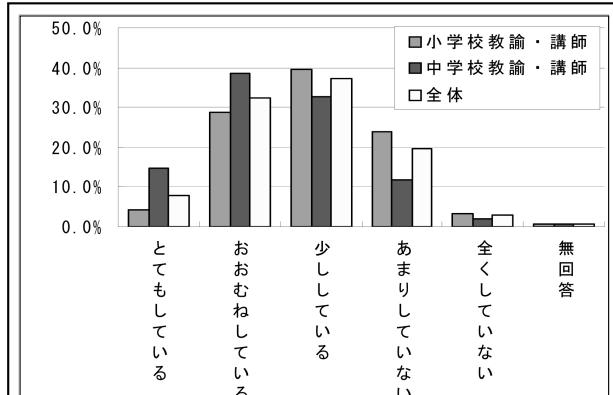
1 調査を実施するにあたって

今後の学校における学習指導の改善を目的として、市内小・中学校の全教諭・講師を対象に、「授業」「評価」「家庭学習や保護者との連携」「学習指導の悩み」「日々の研修」「佐倉市への意識」等について、質問紙方式による調査を実施しました。

2 授業について

調査結果から、どの小・中学校でも、授業に関しての意識は高く、「多様な学習形態や指導法を積極的に取り入れた授業」「教材・教具の工夫」「生徒指導の機能を重視した授業」を行っているといえます。

しかし、「他の教科等と関連させた授業」「子どもたちの授業アンケートをもとにした授業改善【グラフ1】」については、「少ししている」「あまりしていない」という回答も多く、意識の分散傾向が見られます。

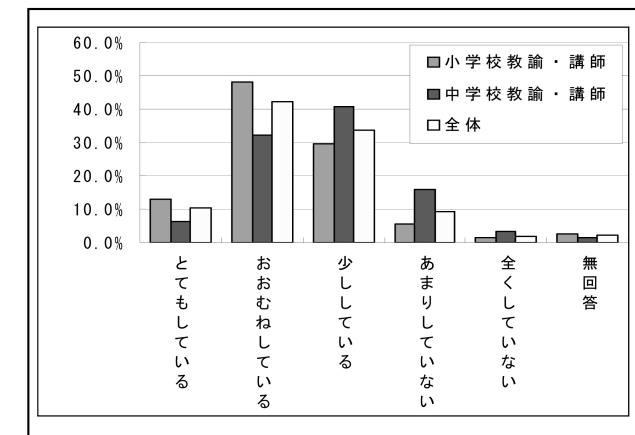


3 家庭学習や保護者との連携

子どもたちの家庭学習に対する指導や保護者との連携について、小・中学校とも改善すべき面が見られます。

小学校は、ほとんどの教諭等が宿題を出し、保護者と連携を図りながら学習指導を進めていく傾向が見られます。【グラフ2】しかし、学級担任とそれ以外で大きな差が見られ、学級担任が中心となって家庭学習の指導や保護者との連携が行われています。【グラフ3】

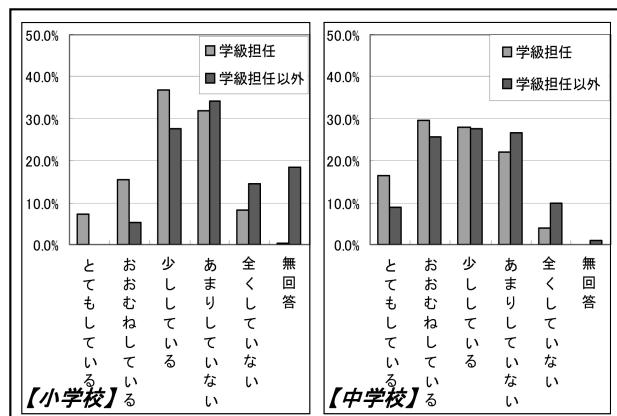
中学校は、学級担任とそれ以外で大きな差は見られませんが、家庭学習の指導や保護者との連携については分



散傾向があり、取組の個人差が見られます。【グラフ2】

と3】

また、データを考察すると、小・中学校とも宿題を出しているない教諭等は、子どもたちが自主的に家庭学習をするような手立てを講じていない傾向が見られます。



グラフ3 子どもたちが自主的に学習するように具体的な手立てを講じている割合【学校担任・担任以外別】

4 まとめ

現在、「少人数授業」「習熟度別の授業」「チーム・ティーチングによる指導」等による個に応じた指導が定着し、「グループ学習」「話し合い活動」「発表活動」などを積極的に取り入れ、工夫して学習指導を行っています。しかし、「評価」「家庭学習」「保護者との連携」等で取組の個人差が見られます。また、「佐倉に対する意識」「個々の研修」についても同様です。今回の調査結果をもとに、学校としての学習指導の方針を定め、組織的に取り組めるようにすることが大切です。（沖永 寛）

道徳意識における佐倉市民の傾向

—市民道徳意識調査より—

1 調査について

道徳教育における課題を見出すための資料等を得ることを目的とし、高校生、成人を対象に道徳意識に関する調査を行いました。高校生は、佐倉市内の高校に在籍している2学年全生徒を対象に実施しました。成人は、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳以上の市民、各600人、計3000人を無作為に抽出して調査しました。質問は、昨年度、小学生と中学生を対象に実施した道徳意識調査を基に、**道徳的判断力**(良いか悪いかの判断)や、**道徳的習慣**(自分自身が実際にとる行動)、**道徳的実践意欲・態度**(良いことや正しいことを行うよう心がける)の3点から作成しました。また、高校生の日常生活、高校生と成人の地域の活動とのつながり等の質問も取り入れ、道徳性との関連性についても調べました。

2 主な結果から

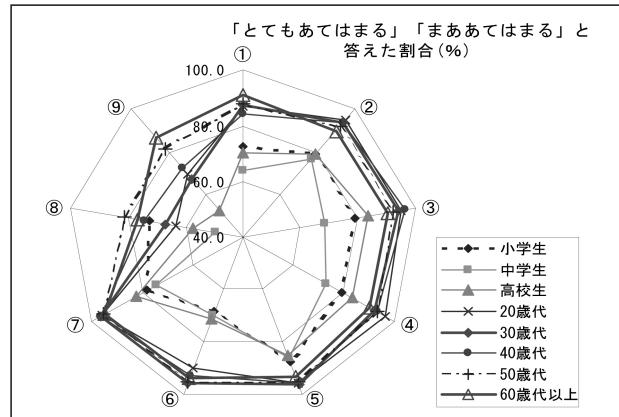
【道徳的実践意欲・態度に関する9つの内容項目】

①思慮・節制	規則正しい生活に心がけ、健康的な生活を送りたい
②理想・努力	善悪の区別をし、よいと思うことを行いたい
③礼儀	時と場に応じた言動をとれるようにしたい
④思いやり	手助けが必要な人を、助けてあげるようにしたい
⑤生命尊重	自他の命を大切にしたい
⑥感動と敬畏	自然のすばらしさに感動する心を大切にしたい
⑦公徳心と権利・義務	社会のルールやマナーを守るようにしたい
⑧勤労・社会奉仕	社会の役に立てる仕事をやってみたい
⑨郷土愛	佐倉市に誇りを持ち、文化や歴史を大切にしたい

※⑨「郷土愛」は小学校、中学校の調査では扱っていない

（1）道徳的実践意欲・態度の年代別比較【グラフ1】

道徳的実践意欲・態度に関する9項目について、「とてもあてはまる」から「まったくあてはまらない」の4段階にわけ、質問しました。意識が高い項目は、③「礼儀」④「思いやり」⑦「公徳心と権利・義務」です。特に、⑤「生命尊重」に関しては、どの年代においても意識が高く、「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した割合は80%以上でした。一方、⑧「勤労・社会奉仕」に関しては、どの年代においても意識が低く、他の項目と差が見られます。また、年代別に見ると、50歳代、60歳以上はどの項目についても意識が高く、項目による差があまり見られませんでしたが、中学生と高校生においては項目による差があり、意識の多様性が見られました。

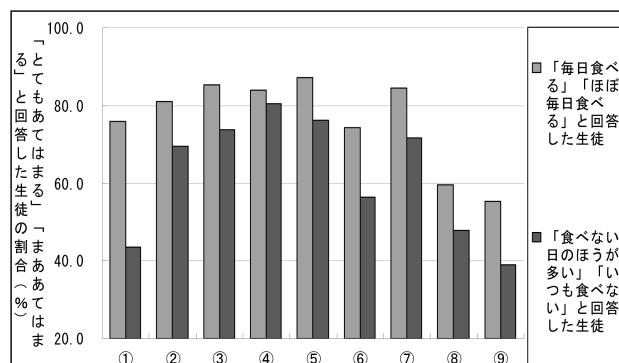


【グラフ1】年代別、道徳的実践意欲・態度

（2）高校生の生活習慣と道徳的実践意欲【グラフ2】

朝食の習慣が身についている高校生は、朝食の習慣が身についていない高校生より「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した割合が高い、という結果が9項目すべてについて見られました。道徳的判断力、道徳的習慣に関するすべての項目について同様の結果が見られました。

また、夕食を家族と食べている高校生は、家族と食べていない高校生よりも道徳性が高い傾向があるという結果もでています。高校生の日常の生活習慣と道徳性には関連性があると思われます。

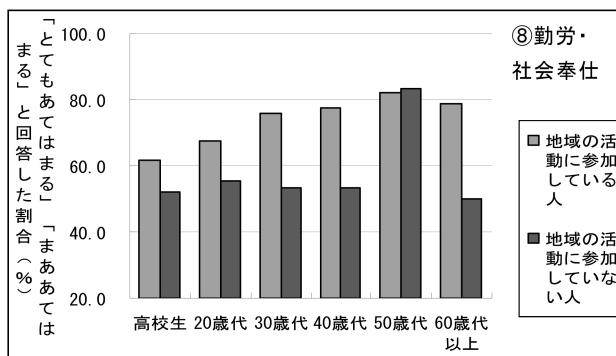


【グラフ2】朝食の週間と道徳的実践意欲との関係(高校生)

（3）地域活動への参加と道徳的実践意欲・態度【グラフ3】

高校生と成人において、地域の活動に参加している人としていない人で、道徳的実践意欲・態度について比較し、その関連性を見ました。高校生、20歳代、30歳代においては地域の活動に参加している人は、していない人より意欲が高いという傾向が見られました。特に⑧「勤労・社会奉仕」については、高校生、20歳代、30歳代、40歳代、60歳以上に

おいて、地域の活動に参加している人と、していない人の意識の差が大きく、関連性が高いと思われます。一方、50歳代においては、地域の活動への参加の有無に関わらず、どの項目についても意識が高く、道徳性が身についていることがわかりました。



[グラフ3] 地域の活動への参加と道徳的実践意欲・態度との関係

3 まとめ

(1) 偏りのない道徳性の育成をめざして

昨年度と今年度の調査結果から、どの年代においても、道徳的な行為に対する意欲は高く、判断力と習慣については意識が低い、という結果が見られました。特に、中学生、高校生、20歳代においてはその差が大きく、若い人たちの判断力と習慣を育成していくための方策は、今後の課題と思われます。また、どの年代においても、⑤「生命尊重」⑦「公徳心と権利・義務」など意識が高いものと、⑥「感動と畏敬」⑧「勤労・社会奉仕」など意識が低いものと、項目による差も見られました。道徳性においては、道徳的判断力、道徳的習慣、道徳的実践意欲・態度の3点に偏りがないことが大切です。それぞれが密接な関連をもつような方策を工夫し、調和のとれた道徳性の育成が望まれます。また、内容項目についても、育成、改善すべき項目を明確にし、9項目がそれぞれ相互に関連性をもたせた指導、対応が必要です。

(2) 地域の活動への参加と道徳性との密接な関係

今年度の調査を通して、地域活動への参加と道徳性の関連性は、特に若い世代において大きいことがわかりました。高齢者や異年齢と接する機会や場が少ない中、地域の活動との関わりから学ぶことは多く、地域が若い人たちに与える

影響はたいへん大きいものがあります。しかし、地域の活動に参加したことがあると回答している割合は40歳以上が90%以上であるのに対し、中学生、高校生、20歳代、30歳代は低く、特に中学生、高校生は約60%です。小学生の参加の割合が約80%であることから、地域の活動とのつながりが継続できるような環境づくりが望されます。そのためには家庭、学校、地域が相互に連携しあう機会や場を積極的に取り入れることはもちろん、大人が子どもたちの道徳性を育していくという役割を意識し、積極的に地域の活動との交流を図るなど、子どもたちの手本となることが望されます。

(3) 子どもたちにおけるコミュニケーションの重要性

小学生、中学生、高校生において、朝食の習慣が身についており、夕食を家族と食べている児童生徒と、そうでない児童生徒の道徳性の差は、年齢が上がるほど大きくなっています。また、地域の活動と交流がある児童生徒と交流がない児童生徒の道徳性についても、同様の結果が見られました。家族や地域と触れ合う時間や場をもつことは、子どもたちの道徳性の向上に大きく影響すると思われます。家庭、学校、地域が連携をとりながら、子どもたちとコミュニケーションを深めていくよう大人が率先して取り組むことが必要だと思われます。

(4) 比較的高い郷土愛

佐倉市への郷土意識について年代別に見ると、意識にあまり差がなく、比較的高い傾向が見られました。また、居住年数との関係では、「20年以上」の市民の意識が一番高く、次いで「5年未満」の市民が高いという結果がでています。佐倉市に愛着をもっている市民が多く、若い人たちや新しい住民も佐倉市に期待をしていることがわかりました。

今回の調査では、多くの貴重な資料を得ることができました。特に成人の方からは、回収率が45%を超える多くの回答をいただきました。中には「体調が悪いので回答ができなくて申し訳ない」といった電話をいただくこともあります。調査の結果だけでは見えない佐倉市民の意識の高さを実感しました。あらためて皆様のご理解、ご協力に感謝します。

(前林 典子)

編集後記

今年度は、佐倉市教育センターの調査・研究を市民の方々にも知っていただけるように、佐倉市の広報誌「こうほう佐倉」にその一部を掲載しました。また、2月に実施する教育センター等の報告会を、市民の方にも聴講していただけるように準備を進めています。今後も教育に関する様々な調査を実施し、情報を市民の方々へ発信していきたいと思います。(前林 典子)